

生徒による授業評価に対する  
各教科、学年における集計結果の分析と改善点等のまとめについて  
平成30年度

教科名・学年	集計結果の分析と改善点等のまとめ
国語	担当者が情報を共有することにより、生徒の理解に応じた授業をすることに努める。 また、辞書を引かせドリルを行うことで、語彙力を高め、読解力を養成し、その結果意欲的に学習できる取り組みをしていく。
地歴・公民	教科担当者間で情報共有を図り、教材や授業方法について検討する。特に、生徒の興味関心・理解促進のため、視聴覚教材を取り入れた授業展開を考える。また、学力に応じた課題等をもって、知識定着と応用力養成に努める。
数学	習熟度別授業（1年）では生徒の理解を深める授業になるよう能力を伸ばすことに努める。数量や図形を具体的に扱うことで楽しさや数学の良さを見つけるような興味関心のでる授業にしていく。
理科	理科に対する関心・意欲の低下が懸念されている中、まずは自然の事物現象に対し、知的好奇心や探究心を持たせる事ができるような授業をしていく。 知識の獲得や入試での得点力向上を目指す事はもちろんであるが、そのためにも大前提として、自然に親しみ、疑問や目的意識をもった観察・実験を行い、科学的な思考力が持てるような指導・取り組みをしていく。
保健体育	生徒の学習意欲が育つよう、教員同士の切磋琢磨の中で研鑽を深めていく。生徒自ら考え行動ができ、より良い人間関係構築ができるよう手助けをする。
芸術	課題の与え方や授業の進め方をさらに工夫し、教師側の熱意が伝わるよう心がけたい。
英語	外部試験を利用しながら、4技能の基礎基本の定着を図る。また生徒の理解に応じた授業を目指し、ICTを用いるなど教材を見やすく工夫していきたい。授業や家庭学習に積極的に取り組むよう指導をしていく。
家庭	4KTV等の導入が進んだ影響もあるのか、実際に見たり触れたりしていなくても、画面や置いてある物を見るだけで理解したと思う生徒が増加している。見ただけで完了ではなく現物を見たり、触れたりする体験を多く取り入れたり、限られた資源をのもと、どう生活していくかなどリペアを含めた指導をしていく。
情報	身近にある情報通信技術やこれらの技術を用いるために必要な情報モラルに関する知識について関心を持ち身につけられるように努め、学習する必要性を実感できるようにする。また、将来、社会人になって文章作成、表計算、プレゼンテーション資料の作成が行えるように、実習を行っていきたい。
1 学年	家庭学習の定着と学習時間の増加をはかるための働きかけを工夫して、基礎学力の向上を目指すとともに、進路を明確化させることにより、やる気を育てる。
2 学年	基本的な生活習慣ならびに学習習慣の定着及び継続。 卒業後の進路を見据えた2学年での基礎学力の定着と発展的学力向上を引き続き目指していきたい。

3 学年	進路実現にむけ授業、補習授業や面談指導等のより一層の充実を図りたい。
------	------------------------------------